



おめでとうと書けない友に寒見舞  
受付の壺の蠟梅馥郁と  
相席の娘を祝ぐ電車成人の日

丞子

瑞枝

○脳天を貫き通す寒の水  
○寒の入朝のオムレツふわとろに  
寒暁や藪から棒に空明くる

郁子(土)

○稜線の澄みてはるけし初山河  
初場所や取組間際の力士の眼  
自販機や寒の音して缶罎

えり

○長宗我部居城の坂や梅探る  
○年の暮一人で啜る肉うどん  
城黙止す鳥の食うなり竜の玉

富子

寒卵高き価格で売られおり  
探梅に先客ありて「此処ですよ」  
セピア色ゲートル巻いた考に会う



○蒸しパンの湯気の純白寒の人  
○梅探る山に窠跡祠跡  
雪女の欠伸を映す道路鏡

千代

○店頭の一等席に冬苺  
年賀状今年限りと又ひとり  
探梅や蕾も夢も含らんで

郁子(岡)

○探梅や友の吐き出す胸の内  
○柔らかき読経の声や寒紅梅  
幼き日母を囲んで葛湯かな

紀美

○風に乗る寒梅の香に呼ばれけり  
寒菊や愛と日を受け色濃ゆし  
寒見舞手ぶらで顔出す聞き上手

迪子

○廃屋の梅の木に風つんとして  
○日脚伸び畳の隅のビーズ玉  
ランナーや寒風発止と箱根坂

綾子

○コンビニへ寒の満月背に急ぐ  
探梅行道に迷いてチヨコレート  
ペダル踏む火野正平の逝きし冬

文子

農子

○鈍色の川の寒鯉動かざる  
探梅行一度来た道鳥の声  
大晦日お喋りの友は星になる

初江

○丹頂の給餌を狙う寒鴉  
○探梅や峠の茶店閉鎖中  
○イタンの人も混ざりてどんど焼く

味元 昭次 作品

先頭は邪心あらわに探梅行  
三寒の朝寝四温の大あくび  
探梅の行き着くところ流人塚

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年二月二十六日(水)  
午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

